



あきたの 地域医療通信

2020年3月 第36号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医療人材対策室

秋田大学の秋田県地域枠出身者であり、県内の医療機関（現在：能代厚生医療センター）で勤務をされている倉橋保奈実先生にお話を伺いました。

【秋田県地域枠とは】

将来、秋田県内の公的医療機関等の医師として地域医療に従事しようとする気概と情熱に富んだ方を選抜する秋田大学医学部の入学枠です。入学者には、秋田県が修学に必要な資金を6年間貸与し、卒業後9年間で県内医療機関で従事すること（9年のうち4年間は知事が指定する医療機関で勤務する）により返還が免除されます。現在多くの地域枠出身者が、県内医療機関にて勤務されています。

Q1. 先生が医師を目指したきっかけ、地域医療に興味を持ったきっかけは？

A. 小学校の担任の先生に勧められたのが一番最初だと思います。私が生まれ育った田沢湖地域は、高齢者や観光客が多いのですが、医師が少なく、救急医療体制のある病院もありませんでした。緊急の場合は、近隣の角館や大曲まで行くことになります。外来診療も限られており、朝早くから受付に並び、一日がかりで病院に行くような状態でした。そのような状態を見て、私も地元の力になればという思いをもちました。

Q2. 地域枠に応募した理由は？

A. 地域枠は、医学部への進学を考える中で、高校の先生に教えていただきました。地元の地域医療の役に立ちたいという目標もありましたし、奨学金があると、親の負担も減らせると思いました。

Q3. 血液内科医になった理由は？

A. 元々内科系を考えていましたが、大学で勉強した時に、更に興味が深まりました。血液系の病気は遺伝子などの直接目で見えないものについてまで、あらゆる可能性を想像することが重要になります。疾患や病



能代厚生医療センター 血液・腎臓内科
倉橋 保奈実 先生

【プロフィール】

秋田県仙北市出身。秋田大学卒業後、秋田厚生医療センターにて研修。2018年4月より能代厚生医療センターにて勤務。

気の種類も多く、それを考えていくのが面白いと感じました。

Q4. 初期臨床研修について

A. 初期臨床研修を行う病院は、尊敬できる指導医が

いて、自分の進みたい分野の研修がしっかりできるところを考えました。また、研修期間が終わると、専門外の疾患について深く学べる機会は少なくなるため、診療科が揃っていて、他科の研修をきちんとできるような病院を選びました。

科によっても様々な特徴がありますが、周りに流されず、やりたい科を決めることができました。また、多くの先生方にも出会うことができ、充実した研修期間でした。

Q5. 診療で心がけていることはありますか？

A. 高齢の方は、あまり自分の病気や治療について理解できていない人もいます。今、飲んでる薬について聞いても、「何かわからないが、とりあえず飲んでる」と答える人も多いです。

そのため、毎回どんな病気で、こんな治療が必要なんだということを、丁寧に説明をするようにしています。また、採血結果が出た時は、その患者さんの病気のどの部分に注意すべきなのかを紙に書いて渡すようにしています。

その他にも、患者さんの話をよく聞くようにしているので、外来の時間が長くなってしまふのは悩みどころですが、何気ない会話が、治療のヒントになることもあります。

Q6. 今の職場での勤務はいかがですか？

A. 能代での生活は2年目ですが、大分慣れました。能代厚生医療センターはドクター同士の垣根が低く、他科の先生たちとも仲良く出来ています。また周りのスタッフのみなさんも良くしてくれるので、楽しく過ごしています。

Q7. 今後の目標は？

A. 研究や造血幹細胞移植など、大学で力を入れている分野を勉強しながら、広い視野をもち、実力をつけ

ていきたいと思います。その後は、一般内科や総合診療を行えるようになって、地元貢献したいです。地域枠のこともそうですが、秋田や地元で育ててもらったところもありますので、恩返しをしたいと思います。

Q8. 最後に医学生・研修医・若手医師へのメッセージをお願いします。

A. 初期臨床研修の2年間は貴重です。3年目以降は自分の専門の病気を診ますが、他科の合併症などの初期対応の知識や基礎知識を学ぶのは研修医の時しかありません。3年目以降のことも考えて、いろいろな科の知識をつけて欲しいと思います。自分の志望する科を既に決めている人も、固執せずに、柔軟な思考で知識を吸収する姿勢で、専門科を決めてほしいです。また女性の場合は、ライフプランなども考えながら、進むべき道を決めるとよいと思います。

医学生は実習が早まったということもあり、臨床を早いうちから学べる機会が広がっています。国家資格の有無はありますが、学べることは研修医と変わりません。医師ではないからと気持ちで引いてしまわず、与えられた学べる場を、最大限に活かしてください。また、学生時代は二度と戻らないので、友人との思い出をたくさん作って欲しいと思います。



秋田県臨床研修病院合同説明会を開催しました

令和2年2月7日（金）に秋田大学医学部を会場に、県内の14臨床研修病院が参加し、「秋田県臨床研修病院合同説明会」が開催されました。講義形式の全体説明会とブース形式の個別説明会の二部制で行われ、多くの医学生が参加しました。

各臨床研修病院の指導医・研修医の先生方が、医学生に対し、研修や病院に関する情報を熱心に説明しました。

秋田県臨床研修協議会では、今後も、様々な機会を通じて、県内14の臨床研修病院の情報を医学生に提供していきたいと思っています。



ドクターショートサポートバンク

県内医療機関での1日単位の勤務を希望される方に、就職先を斡旋・紹介します。

求職登録された医師の方々には、求人登録をしている病院又は診療所に関する情報の提供、面接の際の病院への同行など、雇用契約に至るまでの間、できる限りのお世話をさせていただきます。条件が折り合わない場合でも、引き続きご希望に合った病院又は診療所を紹介します。現役医師のみならず、定年や育児等で臨床を離れていた方も含め、地域医療に関心のある方を広く募集します。もちろん、常勤を希望される方も歓迎します。



イベントカレンダー

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先 (団体名/電話/FAX)
4月10日(金)	令和2年度新医師歓迎レセプション	初期研修医	ホテルメトロポリタン秋田(秋田市)	秋田県医師会 TEL : 018-833-7401 FAX : 018-832-1356

秋田大学医局紹介

秋田大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

当講座は、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医療の充実と向上を目指し、県内外の病院や他科との連携を取りながら耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域のすべての疾患を取り扱っています。

また、臨床のみならず基礎研究の分野でも、腫瘍・アレルギー・免疫・内耳などの研究を活発に行っています。入局者には早期から豊富な症例を通じた知識と技術の習得と同時に、大学院への進学を推奨しています。さらに出産や育児などにも配慮しながら、一人一人の希望を尊重したキャリア形成に力を注いでいます。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域では、近年、人工内耳をはじめ、アレルギー性鼻炎における舌下免疫療法や抗体製剤、頭頸部癌における低侵襲手術や免疫チェックポイント阻害剤などの先進の医療が次々と開発・導入されています。今後ますますの発展が期待される分野であり、これらの医療の充実のためにも優れた医師の育成に努めています。

また年に一度、内視鏡手術を中心としたハンズオンセミナーも開催しています。興味がある方はぜひお気軽にお問合せください。



問い合わせ先

秋田大学大学院医学系研究科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座
准教授 鈴木真輔

e-mail : suzukis@med.akita-u.ac.jp

Tel : 018-834-1111 (病院代表)

構成員：医局員11人、後期研修医3人、耳鼻咽喉科専門医8人(指導医4人)、頭頸部がん専門医2人(指導医1人)、アレルギー専門医1人(指導医1人)、気管食道科専門医1人

指導医メッセージ

平鹿総合病院
循環器内科

武田 智 先生



私は、20数年前、平鹿総合病院で研修を行いました。日々、自身の成長を自覚することができた貴重な時間でした。今一緒に働いている研修医の先生達が頼もしく成長していく姿を、懐かしくうらやましく思いながら見ています。

研修医メッセージ

大館市立総合病院
渡邊 咲季 先生
(弘前大学・北海道出身)



早いもので秋田で研修を始めてもう1年が経ちます。まだまだ学ぶことばかりで日々勉強の毎日ですが、楽しく研修をさせて頂いています。

大館での研修を考え始めたのは5年生の秋ごろで、部活の先輩や同期から「大館の研修が何やら人気らしい・・・」と聞いたことが始まりでした。

実際に6年生のクリニカルクラークシップで1カ月間実習してみると、たしかに研修医として必要な力を身につけ

当院のような秋田の田舎の病院では、指導医や病院スタッフだけでなく、患者さんやご家族も、研修医の先生の成長を期待しそのために協力したいと思っています。「偉くなってここに戻ってきて私や家族をまた診てね」と研修医の先生に声をかけてくれます。地域の病院で行う研修の良い点として、症例を多く経験できることが挙げられると思いますが、数だけでなく、こういったところもよい研修ができるポイントとして強調したいと思います。

少しでも興味のある方はぜひ見学にいらして、そんな視点でも研修医の先生の姿を見てもらいたいと思います。横手は病院にいても四季の変化をはっきり感じる事ができる気持ちのいい町です。秋田で、横手で、一緒に働いてみませんか？

MESSAGE

る為の研修環境、指導医、研修プログラム、何をとっても恵まれていることばかりだと感じました。気がつけば研修病院として第一希望で出願し、今に至ります。研修の魅力は挙げるときりがありますが、例えば救急は1次救急から3次救急まで偏りなく診ることができるように他施設と連携していますし、研修医が診察した患者は全例で上級医に相談できる環境となっている為、わからないことはすぐに確認できる体制が整っています。また、志望科に合わせて自由に科を選んで回れるので初期研修ながら専門的知識を学べる機会も多くあります。とにかく自信をもって皆さんにおすすめる出来る研修病院です。ぜひ1度見学に来て下さい！いつでもお待ちしておりますよ。

国立病院機構あきた病院

〒018-1393 秋田県由利本荘市岩城内道川字井戸ノ沢84-40
TEL : 0184-73-2002 FAX : 0184-73-2370
HP : http://akitahp.jp/AkitaHP_top.html#lagari/



当院は、神経難病・筋ジストロフィーなどの神経・筋疾患、重症心身障がい児(者)に関する専門的な医療および結核医療等を行っております。また、機構病院の血液、骨・運動器疾患、秋田県の難病医療ネットワーク事業に参加し、神経・筋疾患分野の難病診療分野別拠点病院(秋田神経難病医療センター)としての役割も担っております。

この他、日本神経学会の教育関連施設の指定や、病院機能評価認定(平成28年1月 認定番号第JC2076号 慢性期病院、機能種別版評価項目3rdG: Ver1.1、認定期間5年間: H28.1.15 ~ H33.1.14)を受けております。

今後も、当院の基本理念である「心のこもった癒しの医療」を皆様に提供できるよう努めてまいります。

… お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医療人材対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号
E-mail : ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410